

除染法など学ぶ

村上氏ら主宰

原発対策会議

自民党の村上誠一郎

氏(衆院2区)らが主宰する原発対策国民会議の会合が25日、国会内であり、東京大の児

玉龍彦教授(内科学)

が除染の在り方や内部被ばく対策を国会議員約15人に説明した。

児玉教授は昨年7月の衆院厚生労働委員会で政府の除染施策を激しく批判し、放射性物質からの防護方法などを提言している。

同日は除染について

「放射性物質で汚れた物は材料から替えないと駄目だ」と指摘。

放射性物質は屋根や雨戸に残っていると、水で流したり、拭き取ったりでは効果はなく、交換が必要と話した。

内部被ばくした人の

体調変化を早期に発見するほか、相談に応じられる地域の医療態勢を整備する必要があると強調。議員には「政治家は人の気持ちに敏感になってほしい」と訴えた。

(和泉太)